平成２０年１０月３日(土)１２：３０～

北見東ロータリークラブ（北見ビッツアークホテル）

「永遠の森を目指して」

本日はお招きをいただきありがとうございます。

既に新聞等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、「河西ぼたん園」は昭和３年に祖父の貴一が創立してから今年で丁度８０年を迎えました。

全国ラジオ体操が始まったのも昭和３年だそうで、８月９日（土）早朝から記念の体操会が「北見地区ラジオ体操連盟」さんなどの主催で私どものぼたん園で開催されました。

当日は夜明けから小雨が降っていたにもかかわらず約８００人の方々が参加され、NHKテレビ・ラジオ体操指導者の多胡肇さんも東京からお出でになり元気いっぱい爽やかな空気を思う存分吸っていただきました。

これに先立って６月１３日（金）、１４日（土）には「河西ぼたん園を支援する会」の主催により、第１回目の「平成ぼたん祭り」を開催させていただきました。

当日は生憎の小雨模様で肌寒い天候でしたが、昔懐かしい綿飴や金魚すくい等の縁日が並び、「どん」（今でいうポップコーン。大砲に似た機械で作り「どーん」という大きな音がする）、紙芝居などが出て約１，０００人（新聞報道）の方々で賑わいました。

翌日の１５日は日曜で晴れたことと、朝のNHKニュースで「ぼたん祭り」が放映されたため１３、１４の両日を凌ぐ大勢のお客様にお見えいただき、私は駐車場の案内でてんてこ舞いの一日でした。

「河西ぼたん園を支援する会」は５月１９日（月）に設立総会を「ぼたん園」にて開催、発足しました。

発足に至るまでの経緯については後でご説明しますが、有志の方々による自主的な会で会長には本日この集りにお呼びいただく機会を作っていただいた北見地方技能士会会長の柴田会長（北見東ロータリークラブ会長）にお引受けいただいております。

８月の時点で会員数は会費の無いボランテｲア会員が２６名、会費のある個人会員が１８６名、法人会員が３６社となっております。

会員の皆様のおかげ様で現在園内の整備は私が当初考えておりました進捗状況を大幅に短縮して進んでおります。

特にボランテｲア会員の方で殆ど毎日来てくださって支障木、倒木の処理、薪割りや草刈り、草取りをしてくださる方が居られます。

現在園周辺部の樹林帯の支障木、倒木の伐採・処理は約半分まで進んでおります。会員の方たちとぼたん園の外周を一周できる遊歩道ができるといいね、冬はスキーコースにしようなどと話しております。

また園内の既存の建物や神仏像などの修復についても柴田会長にお願いして進みつつあります。園内には昭和２０～３０年代の建築物で、現在では見かけなくなった木造漆喰塗の壁、瓦葺屋根の建物がいくつかあります。

これらの建造物を修復、復元して歴史的、文化的に価値のあるものとして後世に伝えて行ければと思っております。

まだ全体としては緒についたばかりですが、皆様のご支援のおかげ様で着実に前進しつつあります。

先ほど触れました「支援する会」発足までの経緯について少しお話しさせていただきます。

そもそも「支援する会」と私を結んでくださった方が北見冷機工業　株式会社の井戸社長さんのお嬢様で現在東京にお住まいの井戸理恵子さんです。

井戸さんは現在東京を拠点に「民族情報工学」を中心に日本の伝統的な職人さんの技術伝承や文化・芸術など幅広い活動をされていて、「東京北見会」の役員もされています。

昨年の７月に当時まだ川崎市に住んでいました私に突然お電話をいただき、「現在牡丹園はどうなっていますか？」と聞かれました。

当時私は翌年（平成２０年）から北見へ行く積りで準備をしていましたので、その旨お話をしました。

ともかく一度お会いしたいとのことで、会社(当時は未だ会社勤務)帰りに下北沢で落ち合うことになりました。

その時井戸さんが差し出された本が「３０００万本の木を植えた男の物語　魂の森をゆけ」（一志治夫著　集英社ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ）でした。

実は私はこの２年前（平成１７年）にNHKの「知るを楽しむ」というテレビ番組で「日本一多くの木を植えた男」として３週に亘って紹介された　宮脇　昭先生を知り井戸さんが差し出された本も読んでおりました。

当時私は牡丹園を将来どんな方向を目指したら良いのか悩んで居りましたが、ある日会社の帰りにいつも立ち寄る本屋で立ち読みをしていて目に留まったのが前出のテレビ番組の案内本でした。

その本の冒頭には、こう書かれていました。少し長くなりますが大事なことですのでそのままご紹介させていただきます。

・・・・・

今、いのちと心と遺伝子が危ない。これほど文明・技術が発達し物質的に豊かな環境の中にありながら、である。子どもたちは物心ついたころから指と目を動かせば好きなものがすべて手元に寄せられ、また殺してもリセットすれば生き返るようなバーチャル（架空）の世界で育っている。大人たちも昔の人が想像すらできなかったような恵まれた生活を刹那的には享受している。その反面、明日に対する確たる望みもなく、すべての人がなんとなく不安で後ろ向き、暗い未来を予感しながら生きているのはなぜだろうか。

人間も他の動物たちと同様、生態系の一員である。物質的な欲望がどれほど満たされたとしても人間がこの地球上に生かされている限り、実は生態系の主役である緑の寄生者の立場でしか持続的には生きてゆけない。

緑の植物、特に緑が濃縮した本物の森こそ人間の命の基盤である。この本物の森が激減している現在、鉄やセメント、石油化学製品などの死んだ材料だけでできあがっている画一的な都市文明が続けば、健康な体も、感動する心も、土地固有の文化を創造するための輝ける知性も、そして遺伝子も、危険な状態に陥る可能性が深まる。

中略

木を植えてもうまく育たないのではないか。台風や地震、火事、津波などに襲われるとあっという間に倒れてしまうのではないか。また、いつまでも管理費がかかるのではないかなどと、みなさん、いろいろ思われるかもしれない。しかし、植物の世界でも「本物」は長持ちする。

土地本来の森の主木群を間違えずに選択し、生態学的な脚本にしたがって混植・密植する本物の森づくりには、このような心配はいらない。

今こそ、楽しく希望に満ちた未来を築くために、土地本来の本物のいのちの森を目指して木を植えていこう。

・・・・・・

何か私の心に響くものがあって、知れば知るほど「ぼたん園が目指すべき方向はこれしかない」と思うようになりました。

そして翌年の平成１８年には宮脇先生が所長をなさっている財団法人　国際生態学センター（現在は財団法人　地球環境戦略研究機関　国際生態学センター、略称JISE）から上席研究員の村上博士始め３名の方に北見にお出でいただき、北見市およびその周辺域で１２地点の代表的な森林を対象に現在の植生（「現存植生」という）を調査し、その結果から北見地区本来の植生を推定する（「潜在自然植生」という）ことにより今後牡丹園が目指すべき方向と具体的な方法を明らかにしていただくことになりました。

そして、その結果が平成１９年の３月に全文３４ページの「河西牡丹園環境保全林復元計画　報告書」として私の手元に届けられました。

話を元に戻しますが、井戸さんとお逢いした時この報告書を持参していましたので、お見せすると大変驚かれました。私も偶然とは言えあまりにも出来過ぎた話なので、その時は「この人は事前に調査したうえで何か企んでいるのでは」と思ったぐらいでした。

当時井戸さんは東京北見会の会員の方々の北見での拠点となる候補地を探して居られたようで、後で北見市および近郊に何箇所か赤い印をされた地図を見せていただきました。その地図の丁度中心に赤い斜線を引いた部分があり、そこが気になって仕方がなかったと後で言っておられました。

こうして井戸さんとのご縁ができ、その後東京北見会は勿論、北見の有志の方々にも働きかけていただき、その年（平成１９年）の１０月には東京北見会の３０周年総会にも出席させていただきました。

また１０月中旬に私が北見に１週間ほど参りました時に、前後して井戸さんも北見に来られて、その時に初めて柴田会長始め北見の有志の方々をご紹介いただきました。

そして翌年、平成２０年の４月２３日早朝に川崎の自宅を、愛車のヴィッツに家財道具を一杯に積んで出発し、翌２４日の夕刻北見に到着いたしました。

翌日の２５日から５月１９日(月)の「支援する会」の設立総会まで柴田会長始め事務局長の小川清人さん他発起人の方々のご尽力によって、またその後は「支援する会」の皆様を中心に多くの皆様のご支援により今日に至っております。

これからのぼたん園の経営について、私の夢も含めてお話しさせていただきます。

先ず最初にぼたん園の経営に当たってこれは大事にしようと思っていることが幾つかあります。

一つは物より心を大事にしたいということです。物は粗末にしていいという意味ではありません。物を大切にするということは勿論大事なことであります。

物に心を奪われて、心を失うことを戒めたいということであります。

人間ですから苦しい時、迷う時もあると思いますが、そうした時には必ずこの原則に戻って判断するようにしたいと思います。

二つ目は謙虚な心で自然に学び、自然を大事にしたいということであります。

振り返ってみますと学生時代、会社員時代を通じてストレスが溜まったと感じるときは山歩きをしていました。一人のときもあり、気の合った友人と一緒の場合もありましたが、一日自然に包まれて思いきり汗をかいて帰ってくるとまた翌日から元気で働くことができました。

５，６年前から川崎の自宅から車で１２，３分のところに農地を借りて休みの日は農薬や化学肥料を使わない野菜作りを始めました。

最初は２，３年で飽きてしまうかも知れないと思っていましたが、実際に始めてみると段々とはまってしまい休みの日は朝早くから日が暮れて暗くなるまで夢中になってしまいました。

何よりも自然の奥深さと人知の及ばない周到さに圧倒される思いでした。どうしてこんな小さな種の一粒から多種多様な野菜ができるのか？生きて子孫を残すために野菜も草も虫も互いに競い合いながら懸命に、ひたむきに生きている。肥料と水をたっぷり与えれば美味しい野菜ができると思っていましたが、決してそうではない。厳しい環境とぎりぎりの条件で育った方が自然本来の美味しい野菜ができることを知りました。

これらのことは全て人間としての生き方や子育てにも通じるような気がします。

宮脇先生の言葉にありますように所詮人間や動物は、この地球上では主役である緑の寄生者であるに過ぎません。自然を大事にしないで私たちの子や孫の幸せは有り得ないと思わねばなりません。

まだ他にも幾つかありますが、今日は時間の関係もありますので割愛させていただきます。

最後に私のぼたん園にかける思いと夢についてお話しさせていただきます。

先日来NHKテレビのハイビジョン特集で「皇居吹上御苑の四季」と「代々木の杜（明治神宮）」の二つの番組が二夜連続で夜の８時から１０時まで放映されて居りましたが、今から８８年前（大正９年）に当時の日本最高の叡智を集め、「永遠の森を目指して」全国から寄進された照葉樹、落葉樹、針葉樹により６年余をかけて計画的に作られ、現在では高尾や奥多摩の森に匹敵する自然に近い素晴らしい森になっています。更に、例えば倒木はそのままにして更新され、落ち葉も参道以外は掃いたりせず自然のままに管理されているために森全体が腐葉土となり、豊かで独特な生体系が保たれています。

残念ながら一般人は参道以外立ち入ることができませんが、都心にありながら皇居の周辺の千代田区、中央区、港区などは真夏でも、他の区より２，３度気温が低いことが上空から撮影したサーモグラフの映像が示しています。

ぼたん園も規模や内容は比較になりませんが、人が作った森であることと、結果的に比較的自然のまま維持されて来たことは共通しております。

園内はどこを掘っても４，５０センチは黒土で、大きなみみずがいっぱいです。りすもいますし、カラスもいますが、小鳥も多いです。

私の唯一の願いはぼたん園をできる限り自然の状態に維持し、ここを訪れる人々が自然と親しみ、心身の癒しと安らぎを感じていただける場所にしたいということです。

とりあえずは復元計画に基づきより安定した森作りを進め、また園内の建物や神仏像の修復を進めて行きたいと思います。。

昔は園内でリンゴ、梨、梅、あんず、すもも、ぶどうなどを作っておりましたが、今でも梅やコクア（ｻﾙﾅｼ）、山ぶどうなどが採れます。

果樹類の栽培にも挑戦してみたいと思っております。

無農薬、無化学肥料による野菜の栽培や将来は自家栽培した野菜や果実を使った自然食レストランを園内にオープンしたいとも考えております。

園内の倒木、伐採した木などの処理と木酢液、灰の採取を兼ねて炭焼き窯を作ったり、更に陶芸などにも興味があります。

また園内の環境に適したもの、例えば研修や会議、展覧会、小規模の音楽会、更には老人のための福祉施設や幼児教育のための施設などに活用できれば良いと思います。

いづれにしても基本的な理念や方向を間違わなければ、夢はいつかは実現するものと確信しております。

正直に申し上げて経営面ではまだ厳しい状況もございます。まだまだ準備もこれからですが、皆様にご利用いただくことが大きな支援になります。

これからもどうぞぼたん園を暖かい目で見守っていただきますようお願いいたします。

ご静聴ありがとうございました。